

《課題名》

拡散強調 MRI を用いた大腸癌リンパ節転移診断の有用性

《対象者》

当院で2005年11月1日から2013年12月31日に大腸がんで手術を受けられた方で、術前にCT又はMRIの検査を受けられた方

研究協力をお願い

当科では「拡散強調 MRI を用いた大腸癌リンパ節転移診断の有用性」という研究を行います。この研究は、当院で2005年から2013年までに大腸癌に対して手術を受けた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。また希望されれば、計画書等研究に関連する資料を個人情報保護と研究に支障がない範囲に限り閲覧することができます。

(1)研究の概要について

研究課題名： 拡散強調 MRI を用いた大腸癌リンパ節転移診断の有用性

研究期間： 承認日(2020年03月11日)～2023年12月31日

実施責任者： 滋賀医科大学 外科学講座 教授 谷 眞至

(2)研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

大腸癌術前リンパ節転移診断はCT、MRI、FDG-PETにより行われていますが、その感度、特異度はそれぞれ55%、78%にすぎず、決して満足できるものではありません。本研究では拡散強調 MRI 検査を用いたリンパ節転移診断能について検討することを目的としています。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

後ろ向き観察研究。当院で2005年11月1日から2013年12月31日に大腸癌に対して手術を行なった患者さんのカルテより患者さんの年齢、性別、身長、体重、疾患名、手術日、術前治療、術前診断、病期、原発巣の腫瘍占拠部位、各種画像診断（CT、拡散強調MRI、FDG-PET等）検査結果、手術時間、術中出血量、術後合併症、術後在院日数、術式、術後補助化学療法、再発の有無、時期、抗癌剤治療経過、放射線治療経過、病理診断結果、予後（再発確認日、死亡日）といった情報を利用して、大腸癌リンパ節転移におけるMRI検査の診断能について検討します。

(4)予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

この研究の結果、リンパ節転移に関する診断能が向上することで、術前診断の向上が見込まれます。

(5)個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報は個人を同定できないよう、情報は匿名化番号を用いて管理し、個人と匿名化番号の対応表は厳重に管理します。また、研究発表時にも個人が特定されることはありません。

(6)研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7)利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用停止することができます。停止を求められる場合

には、2022年12月31日までに下記(8)にご連絡ください。

(8)問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 外科学講座 三宅亨

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2238

メールアドレス： hqsurge1@belle.shiga-med.ac.jp